

## 「ブラサカ」楽しさ実感

文京「仲間の大切さ感じて」



加藤健人選手（左奥）の指導でブラインドサッカーを体験

12/8 朝日

アイマスクを付けてプレイする「ブラインドサッカー」の体験会が7日、文京区の文京シビックセンターで開かれた。視覚障害者への理解を深めると同時に、パラリンピックの正式種目でもある「ブラサカ」の楽しさを知ってもらおうのが狙いだ。

鉛の玉入りで蹴ると音がするボールを使い、ゴールをめざす。日本代表強化指定選手の加藤健人さんが実演し、見事にシュートを決めた。参加した区内の保育

園児、西野智美ちゃん(6)は「ボールがちりんちりん」と鳴り楽しい」と声を弾ませた。

サッカー少年だった加藤さんは、18歳のころから病気で視覚障害に。「ブラサカ」と出会い、夢だったサッカー選手になった。ピンチはチャンスに変えられる」と語る。「声が頼りのブラサカは支え合う仲間の大切さを感じる競技。見えないからこそ、見えてくる世界もあると知ってほしい」

(西本ゆか)